

## 第1回 町田市最終処分場周辺環境保全協議会の議事要旨

開催日時：平成21年6月29日(月) 19:00~21:30

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：(委員) 小川 由一[会長], 関口 孝夫, 小山 宰正, 加賀谷 文康(代:新井 堅司), 茂野 忠昭, 高橋 清人, 深谷 修司, フォーク エリック, 巽 富士子, 木野 直美, 小林 美知

(アドバイザー) 梶山 正三, 関口 鉄夫

(事務局) 安藤 源照, 加藤 貴一, 内山 重雄, 河西 秀悟, 加藤 保, 菊地 賢治, 田後 真人, 滝沢 恒治, 鶴長 文憲, 斉藤 泰久, 末廣 多恵子

(傍聴者) 1名

(敬称略)

主な議事内容を以下に示す。

### 1. 協議会の設置趣旨について

町田市最終処分場の概要と協議会の設置趣旨について説明があり、下記の点について意見が出された。

① 図内に浸透水集排水管とあるが、浸透水は安定型処分場で用いる用語であるので、この場合は地下水集排水管とするべきではないだろうか。

⇒ 前年度の検討会の時点から示されている内容であり、今後、どの様に表記するかは内部で協議し、梶山先生、関口先生に相談する。

② 断面図に峠谷埋立区の鉛直遮水工が示してあるが、実際に存在するのか。

⇒ 過去に工事を行なっており、存在する。

③ 梶山先生、関口先生が委員会報告書の内容から変更され、アドバイザーという形になったのはなぜか？

⇒ 協議会は市と影響を受ける当事者により構成されるものという市の規定に従わざるを得なかった。そこで、なるべく本来の意図に沿うような形で両先生にはアドバイザーとして参加いただきたい。

④ 本協議会の位置づけとしては、提案を行う場であるのか、採決をとるのか。委員全員の合意を得ることが難しいのではないか。

⇒ 基本的には市で行なったモニタリング結果等に対し、意見をいただく場であり、採決をとることはない。議論の中で、ひとつの意見にまとまらない場合は、時間がかかっても合意が得られるように努力した上で、各々の意見を集約し、市が最終的な判断を行なう。また、市民への報告会も協議会が行なう。

⑤ 現在仮置きされている土について、リサイクル文化センター側の土には塩ビ管やトタン板、礫等の建設廃棄物が多く混入されていた。最終覆土は透水係数が低いことが条件としてあるため、篩う等の対策を検討すること。また、現在の受入基準の中で、このようなことがおこってしまったため、原因を究明し、今後受入の監視方法等、対策を考慮する必要がある。

⑥ 土を購入することも考慮に入れても良いのではないか。

⑦ 土の分析項目については、有機物、濁度、COD等の分析を含んだ TCLP (米国環境保護

庁（EPA）における土壌汚染物質の溶出分析項目）で行なうほうが良いのではないか。  
⇒ 現在の仮置き土においては、立会いも行い、受入基準に則った履歴の確認、分析も行なっていた。土の発生場所は農地であるため建設廃棄物の発生源での混入は考えにくいですが、すぐに混入した原因を調査し、しっかり監視できるよう対策をとる等、適切な対応をとらせていただきたい。

⑧ 処分場内の立ち入りは可能か？

⇒ 委員の方には現場を見ていただくことが非常に重要であり、事務局に問い合わせただけであればいつでも見られるようにしたい。

⑨ モニタリングデータは、計量証明機関から挙がってきた生データを委員全員に送付して欲しい。その後、アドバイザーのコメント等協議会で議論した内容を追記し、公表する形にして欲しい。また、公表前のデータは数字が一人歩きしないよう、委員間のみの取り扱いとするべきではないだろうか。

⇒ モニタリングデータについては、計量証明機関の結果をチェックでき次第、委員全員に送付させていただく。協議会等で承認が取れ次第、HP 等で一般に公開する方向で検討を進める。

## 2. 会長の選任について

会長として小川委員が選任された。

## 3. 対策工事設計、本年度のモニタリング調査について

① 対策工事の順序はどうなっているのか。

⇒ 工程については最終的には工事発注後に施工業者と打合せをして決定するが、まず、調整池の浚渫をおこない、覆土工事、外周水路の工事の順番で行なうことを考えている。

② 不等沈下等により外周水路に不具合が生じることは無いか。

⇒ 覆土層については十分に締め固めるため、ほとんど起きないと考えられる。廃棄物層の不等沈下は設計段階で考慮にいれ、勾配を2~5%と大きめにつけることで対応する。

③ 工事中の濁水処理等の計画も今後具体的に出してほしい。また、他の事例を考慮すると、工事による水質の悪化が懸念される。そのため、できるだけ早く浸出水原水と処理水の水量、電気伝導率の観測に入れるようにしてほしい。

④ 種子吹き付けについての種類については、アレルギーなどの問題も考慮し、検討をすること。

⑤ 最終的な跡地利用の図は現段階では出すべきではないのではないかと。

⇒ 今後検討し、修正をする。

## 4. 本年度のスケジュールについて

① 仮置き土については至急調査を行ない、対策を検討すること。必ずしも臨時で協議会を開く必要は無いのではないかと。

② 協議会を開く必要は無いが、土質や土量が判明した段階で、土質等のモニタリングデータを見せて欲しい。その後、モニタリング項目を健闘する必要があるのではないかと。

ろうか。

- ③ 土量については、土の搬出元の都合があるため、現段階では明確ではない。そのため、工事のスケジュールも明確には決まっていないが、10月頃から開始したいと考えている。

以上